

2025 年度事業別説明会 (欧州事業) における主な質疑応答

- (Q) 欧州事業は旧日立キャピタルの時代から自立したビジネスだと認識しているが、三菱HCキャピタルグループ(以下、MHCグループ)内では相対的に金利リスクが高い個人向け金融部門のポートフォリオがあるということが他の事業と異なる点だと思う。MHCグループとしてのシナジーはある事業なのか。今後のグループ内での位置づけはどうなっていくのか。
- (A) MHCグループ全体に占める海外事業の割合は約 6 割であり、そのなかで海外カスタマーセグメントは安定的な収益基盤として重要なセグメントと位置付けている。
おっしゃる通り、欧州事業は他の事業と異なり個人向け金融部門を有しているのが特徴だが、DX を活用したビジネスを志向していることはMHCグループ全体の戦略とも合致している。
また、重点分野の一つである車両リース部門においても、MHCグループとして注力しているモビリティ事業とのシナジーがある。
個人向け金融部門は金利リスクが高いとのご指摘だが、金利リスクは概ねヘッジしている。たしかにトラスショック後の金利急騰期には一時的に新規契約の収益性は悪化したが、その後は金利が安定し、収益性は回復してきている。
繰り返しになるが、欧州事業は旧日立キャピタル時代と同様、MHCグループにとって重要な事業との位置づけは不変。
- (Q) 以前と比べると資産の伸びは緩やかになり、ROA も低下している。マクロ環境の影響もあると思うが、今後は資産の伸びと ROA の水準をどうコントロールしていくのか。
- (A) 欧州事業の ROA 向上は大きな経営課題だと認識している。足元の 2024 年 3 月期や 2025 年 3 月期については、欧州モビリティ事業の一部リストラに係る費用の発生や、中古 EV の価格下落などの一過性要因が影響していた。
欧州モビリティ事業のリストラは一段落し、中古 EV 価格も安定化傾向、個人向け金融部門のマージンも回復傾向であることなどから、2026 年 3 月期は収益の積み上げを見込んでおり、資産については新規契約の ROA を意識しながら積み上げを図っていく。
- (Q) EV については事業環境の変化によって当初の事業戦略に齟齬が生じているのではないと思う。足元の事業戦略と今後の展開についてもう少し詳しく教えて欲しい。
- (A) EV 化や脱炭素に向けた戦略は 2010 年代中盤から一つの方向性として示してきた。
2025 中計開始時点では脱炭素化は加速すると見込んでいたので、EV やその周辺事業である充電設備などをパッケージとして提供するビジネスモデルを志向してきた。
ところが過去数年は中古 EV 価格の下落や変動が大きかったので、足元では大企業向けの車両管理業務を中心とした戦略にシフトし、顧客の要望に合わせて EV の提供を行っている。その際、EV の残価は極力取らない形で対応している。
ただ、脱炭素化や EV へのシフトは中長期的には進んでいくと考えている。

- (Q) 金利安定によりマージンが回復してきたとのことだが、足元の新規契約のマージンは ROA が高水準にあった 10 年前の水準に近付いているのか。欧州事業の金利リスクは限りなくニュートラルになっているという認識で正しいか。
- (A) 新規契約のマージンは事業によって目線が異なるが、それぞれの事業で必要マージンを確保できるところまで回復している。
- 金利リスクについてはイールドカーブを見ながら運営しており 8 割以上はヘッジしているが先ほども申し上げた通り、短期間で急激な金利変動が起こった場合は短期的に金利リスクが発生する場合はある。
- 10 年前との比較については手元に正確なデータがないので明確な回答はできないが、コロナ禍後のマージン低下からは確実に回復してきている。
- (Q) 一時期、欧州における展開地域拡大を企図した M&A に取り組んでいたと思うが、欧州域内での成長戦略についてもう少し教えて欲しい。お話を伺っていると、既存事業を磨き上げる戦略を短期的には志向しているように思うが、中長期的には欧州事業全体でどのような成長を目指すのか。
- (A) 基本的には既存領域を伸ばしていくのが主要戦略。英国では競合である銀行系ファイナンス会社にいろいろな動きがあるが、MHCグループは過去 40 年ほど英国のマーケットにコミットして事業を伸ばしてきたことが一つの強み。機会があればまとまった資産獲得も検討するが、基本的には既存領域やその周辺の領域で事業を伸ばしていきたい。
- 欧州大陸については多くの国があるので、それぞれの国で大きな資本投下を行うことはあまり得策ではないと考えている。欧州大陸の既存事業である車両リース事業はまだ拡大の余地があるので、現在事業展開をしているオランダやドイツ、東欧のシェア拡大を中期的には目指していく。着実に足もとの事業を深掘りして収益性を上げていくのが中長期的なめざす姿。

以 上